

# みどりのこだま



福島県会津農林事務所

会津坂下農業普及所

河沼郡会津坂下町見明字南原 881

金山普及所

大沼郡金山町大字川口字上町 656-1

電話 0242-83-2113

電話 0241-54-2801

## 「ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新事業」現地検討会を開催しました。

本年度から、福島県は実用性の高い先進技術等を民間の協力を得て営農規模で実証すると共に、その効果の可視化と普及を図るため標題の事業を新たに展開しております。

管内では、会津坂下町宇内の株式会社アルス古川が所有するミニトマトハウスにおいて ICT（情報通信技術 Information and Communication Technology）を活用した生産力を高める新技術の実証を実施しております。

ハウスなどの既存施設に地温、土壌中の肥料分、日射などの観測装置を設置し、そのデータ管理に基づく効果的な栽培環境の実現が可能となります。例えば、水稻作業をしている合間に、ミニトマトの栽培環境の把握および管理がタブレット端末を介して行なうことができ、経営の省力化が図られます。

7月1、2日の2日間、当ほ場において現地検討会を開催しました。初日は、管内関係機関・団体を含め広く県内の産地からも参加していただき、同実証ほの PR と共に産地間の情報交換を行いました。また、2日目は管内生産者を対象に現地検討会を開催し、具体的に今後の新技術導入推進に向けた取組の検討を行いました。

初日は共催の会津みどり農業協同組合の長谷川代表理事組合長も参加され、2日間で120名を超える参加者でにぎわいました。参加者からは積極的に質問や意見が出され、今後の産地再編の方向性が共有されました。その後、生産者から新たな施設の増設や養液土耕システムの導入要望が数多く出され、有意義な検討会になりました。



管理タブレットの説明をする  
アルス古川ふるかわじゅんぺいの古川純平さん



センサー部分の説明をする伊東晃一いとうこういち主査



長谷川正市はせがわまさいち代表理事組合長からのご挨拶

## 安全安心な農業の取組

米の全量全袋検査は、26年産米も県産米の安全性確保と信頼向上のため、引き続き実施します。出荷・販売する米をはじめ、「飯米」「縁故米」も全量全袋検査を受けて、米袋に「検査済ラベル」が貼られた米を利用するようにしてください。

緊急時環境放射線モニタリング（以下、「モニタリング」という。）は県内で生産販売される野菜・果樹の主力品目等について安全性の確認と出荷等制限・解除のために、東京電力原発事故以来実施してきており、本年度も継続して実施しております。

本年度は4月1日～8月13日まで、野菜275点、果実29点、穀類11点でモニタリングを行いました。その結果、野菜は全て検出限界値以下（以下、「ND」という。）であり、最も高い測定値はそばの6.0Bq/kgで、基準値100Bq/kgより極めて低い値でした。

作目	検査点数	ND数	ND割合
野菜	233	233	100
根菜・芋類	42	42	100
果実	29	28	96
穀類	11	9	81
合計	315	312	99

モニタリングの結果から、8月現在、管内の農産物では出荷制限されているものはありません。ただし、管内の野生のきのこ類・くさそてつ・こしあぶら、野生動物の肉等は町村によって出荷制限されていますので、県ホームページ（「福島県 出荷制限」で検索）で確認するか、普及所へお問い合わせください。

## 稲わらを燃やさないようにしましょう!!

9月中旬以降、水稻の収穫が本格的になりますが、収穫後の稲わらを焼却することで、地域住民からの苦情が増加しており、また、視界不良による交通事故の発生の危険性が指摘されています。

稲わらは貴重な有機資源です。燃やさずに、水田にすき込むなど有効活用しましょう。稲わらをすき込むことで、土壌を柔らかくし、地力を増やすことができます。



## ツキノワグマに注意して下さい!!

本年はツキノワグマの目撃や人身被害が多く発生しています。ツキノワグマによる人的被害を防止するため、ツキノワグマの生息地である山野には不必要に立ち入らないようお願いいたします。また、農作業の際は、クマ鈴やラジオなど音が出るものを携帯して、クマに人の存在を知らせるように対策を取って下さい。

なお、動物駆除用煙火を使用する際は、取扱説明書の使用方法を遵守するとともに、杭や保護ホルダーに固定し地面に差し込むなどの方法を取り、直接手に持たないようにお願いします。

## 新農業人インタビュー

東日本大震災以降、風評などの逆境があった中でも力強く就農され、頑張っている新農業人を紹介します。

### トマト農家 佐々木祐喜さん（会津坂下町、平成 23 年就農）

#### Q1 農業を始めたきっかけは何ですか？

県外の一般企業に勤めていましたが、やりがいを見出せずにいました。その当時、農業をやっていた祖父が亡くなり、農業初心者の父が継ぐことになりました。このとき、父の手助けをし、将来は実家の農業を継いでいきたいと思い立ち、就農を決意しました。



佐々木祐喜さん

#### Q2 経営内容を教えてください。

夏秋トマト（25a）と水稻（300a）です。主に夏秋トマトの栽培管理を行っています。

#### Q3 農業のやりがいは？

一般企業に勤めていた頃とは違い、農業は手間をかけた分だけ成果が現れてきます。当然やらないと結果はついてきませんが、そこにやりがいを感じています。繁茂したトマトを1株ずつ手入れするのは手間がかかって大変ですが、ハウス内がきれいな状態になったのを見ると気持ちいい！今後は更に生産量上がるように、栽培技術を磨いていきたいです！

### カスミソウ農家 小泉寛紀さん、陽子さん（昭和村、平成 24 年就農）

#### Q1 農業を始めたきっかけは何ですか？

都内の切り花仲卸業者に勤めていました。昔から花づくりに憧れていて、会社の先輩の就農が刺激となり花づくりを決意しました。新農業人フェアでカスミソウ栽培が行われている昭和村のブースに引き込まれ、あれよあれよと言う間に就農してしまいました（笑）。



写真左：小泉寛紀さん

写真右：小泉陽子さん

#### Q2 経営内容を教えてください。

年間 7,000 株のカスミソウを栽培し、7月～10月まで出荷しています。この他、高原に適する切り花にも挑戦中です！

#### Q3 農業のやりがいは？

憧れだった花づくりを大自然の中で出来て楽しくて仕方がない！

実は、就農を決意したのは平成 22 年の秋。その数ヶ月後東日本大震災が発生しましたが、花づくりへの意志は変わりませんでした。今年でカスミソウ栽培 3 年目。先輩方に負けないよう頑張りたいです！

## 奥会津金山赤カボチャの普及推進に向けた取組!!

金山普及所では、金山町の名産品「奥会津金山赤カボチャ」の更なる普及推進とブランド化へ向け、新しい栽培方法、名付けて「空中栽培」実証ほを設置し、慣行栽培との比較・展示を実施しています。

空中栽培とは、ビニールハウスの鉄骨を利用して上につるを伸ばす栽培法であり、空中に実が浮いているところからそう名付けられました（写真参照）。

この栽培方法の最大のメリットは、空中に浮いていることで赤カボチャの特徴である鮮やかなオレンジ色が綺麗に色づき品質が向上することです。また、夏場は日影となり栽培管理も楽に行うことができます。

今後は、今回の実証をとおして得た結果をもとに、空中栽培の普及推進を強化するとともに、6次化へ向けた取組に対しても支援していきたいと考えています。



奥会津金山赤カボチャ空中栽培の様子

## 金山普及所ブログのご紹介!!

金山普及所では、日々の取り組み等の情報をブログを活用して発信しています。普及指導員の活動記録をはじめ、地域の動き、イベント情報等の情報を掲載しておりますのでご覧ください。

「金山普及所ブログ」で検索してください。また、バーコード読み取り機能がある携帯電話をお持ちの方は、右のバーコードからご覧下さい。



## 平成 26 年度の会津坂下農業普及所の組織体制

平成 26 年度の会津坂下農業普及所は、下記の組織体制で普及活動に取り組んで参ります。よろしくお願ひいたします！

役職名	氏名
所長	鈴木淑彦
次長兼地域農業推進課長	桜井孝
経営支援課長	佐藤充

専門	担当者名 ※:金山普及所所属
作物	穴澤崇 山田康平※ 金丸雄太郎
野菜特産	伊東晃一 皆川歌織
果樹	野上紀恵
花き	大山彰夫 岩沢正浩※
畜産	一条晶恵

## 新任職員の挨拶



いわさわまさひろ  
岩沢正浩（金山普及所キャップ）

14年ぶり2回目の金山普及所勤務になりました。

専門は「花き」を担当しますが、地域づくり、担い手育成、農業の6次化など、担当の壁を設けず、奥会津が元気になる取組も積極的に行っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします！